

答 申 書

苫小牧市水道料金体系の見直しについての答申

平成22年9月21日

苫小牧市公営企業調査審議会

平成22年9月21日

苫小牧市長 岩 倉 博 文 様

苫小牧市公営企業調査審議会

苫小牧市水道料金体系の見直しについて

苫小牧市公営企業調査審議会条例第2条の規定により、平成22年8月24日付け苫上下総第25号をもって意見を求められた苫小牧市水道料金体系の見直しにつきまして、当審議会において審議を行った結果、基本水量未満使用者の不公平感解消及び料金体系の簡素化について概ね妥当なものであると認めますので、この旨報告します。

なお、答申に際し別紙のとおり意見を申し添えます。

苫小牧市水道料金体系の見直しについての答申に際し、以下の意見を申し添えます。

記

今回の水道料金体系の見直しは、平成13年の議会における陳情採択から始まり、今日まで積み重ねられた論議を基にした「負担の軽減」及び「不公平感の解消」並びに平成20年度に策定された苫小牧市水道ビジョンの意図とした口径別体系の「簡素化」を目指すものであります。

現行における水道料金の設定は、用途別逦増制と口径別体系とを併用しており、原価を基に使用者の負担能力や市民生活などへの影響を考慮し総合的な観点をもって定められています。今回の水道料金体系の見直しは、用途別、口径別の考え方を基本とし、さらに負担の公平を図るため、実施にあたっては次の点に留意すべきものと考えます。

- 1 本審議会に諮問された料金体系の見直しのうち、利用者全体の31%を占める基本水量(8 m³/月)未滿使用者への負担の軽減や不公平感の解消については、単身世帯や老人世帯の増加及び節水意識を尊重する上からも、1 m³毎の従量制とすることが望ましく、妥当なものと考えます。
- 2 口径別の簡素化については、利用者全体の99.8%を占める口径13mmから25mmを1区分にすることによって、わかりやすく、利用しやすい体系とし他の口径についても同様に簡素化を図ることが必要と考えます。
- 3 今回の料金体系の見直しによって、今後の料金改定に影響を及ぼすことのないよう努力すべきと考えます。

苫小牧市公営企業調査審議会委員名簿

	氏 名	所 属 団 体 等
会 長	松 原 繁 次	苫小牧市町内会連合会
副会長	佐 藤 孝 司	苫小牧NPO法人連合会
委 員	阿 部 喜 朗	苫小牧商工会議所
委 員	荒 川 照 枝	苫小牧消費者協会
委 員	石 川 進	一般公募
委 員	片 山 晴 賢	苫小牧駒澤大学
委 員	加 藤 克 悦	苫小牧男女平等参画推進協議会
委 員	後 藤 和 博	連合北海道苫小牧地区連合
委 員	佐々木 淳 一	北海道高等学校長協会苫小牧支部
委 員	佐々木 真	一般公募
委 員	佐 藤 秀 文	苫小牧市商店街振興組合連合会
委 員	菅 原 裕 子	苫小牧市民生委員児童委員協議会
委 員	竹 俣 一 芳	王子製紙（株）苫小牧工場
委 員	友 廣 久 之	苫小牧市PTA連合会（平成22年8月26日まで）
委 員	三 橋 晶	〃（平成22年8月27日から）
委 員	中 屋 功	苫小牧信用金庫
委 員	成 田 節 子	苫小牧市町内会連合会婦人部会
委 員	南 間 勝 彦	一般公募
委 員	萩 原 勉	苫小牧市社会福祉協議会
委 員	廣 澤 隆	苫小牧青年会議所
委 員	松 本 静 男	一般公募

（五十音順 敬称略）

苫小牧市公営企業調査審議会審議経過

第 1 回

期 日

平成 22 年 8 月 24 日 (火)

会議内容

- 市長挨拶
- 水道料金体系見直しについて諮問
- 水道事業の概要について説明及び質疑
 - ・事業の概況
 - ・財政の状況
 - ・水道料金の状況

第 2 回

期 日

平成 22 年 8 月 31 日 (火)

会議内容

- 水道事業の概要について説明及び質疑
- 新料金体系の考え方について説明及び審議

第 3 回

期 日

平成 22 年 9 月 7 日 (火)

会議内容

- 新料金体系の考え方について説明及び審議
- 答申書作成のための起草委員を選任

起草委員 松原会長 佐藤孝司副会長 荒川委員 竹俣委員
松本委員

起草委員会

期 日

平成 22 年 9 月 17 日 (金)

会議内容

- 答申書案を起草

第 4 回

期 日

平成 22 年 9 月 21 日 (火)

会議内容

- 答申書案を審議、決定
- 答申書提出